



派遣留学報告書

資料 9

	記入日	2018年12月25日
氏名	重田 あずさ	
所属学部・研究科	工学研究科 博士過程前期	1 年次 (留学開始時点)
学生番号	M182478	
留学先大学	ホーチミン市工科大学 (国名：ベトナム社会主義共和国)	
所属学部・学科等名	土木工学部	
在籍身分	学生	
留学期間	2018年9月5日～2018年11月27日	

1. 留学するまで

留学しようと思ったきっかけ・理由	大学院に入学したら比較的長期間(2ヶ月以上)の留学プログラムに参加したいと思っていた。日本語が通じず行ったこともない環境に長期間身を置き、そこでしか得られない経験を経て自己を成長させる機会が欲しかったからである。また、3か月間のプログラムであれば休学や留年をしなくても参加が可能であると考えたことも、このプログラムへの参加を決めた理由である。
留学準備を始めた時期 (応募する何か月前ですか?)	英語学習に関しては、学部4年で研究室に配属されてから、積極的に留学生の先輩方と交流することで行っていた。その他の準備については、6月頃開始した。(応募は4月)
事前準備について (どのような準備をしたか、しておけばよかったか)	予防接種、ビザ取得のための手続き等。 現地でSIMフリーを利用する場合、SIMロックを解除しておく必要があるが、時間がかかる場合があるため早めに確認しておく。また、スマホアプリGoogle mapまたはmaps.meでオフラインマップを事前にダウンロードしておくとう便利。

2. 渡航について

ビザについて	ビザの種類：DH (対象者：研修・学習する人) ビザ申請先：大阪ベトナム社会主義共和国総領事館 提出書類：ビザ申請フォーム (Excel)、パスポートのコピー、奨学金返還受給証明書、滞在中の活動計画、成績証明書、健康診断証明書、広島大学の指導教員による推薦書、在学証明書 手続きに要した日数：1日
その他必要な事前手続き	留学先大学の担当の先生の指示に従って書式を埋め、手続きしていただいた。8月上旬にメールで受け取った証明書を印刷して大使館に行き、30分ほどでビザを受け取ることができた。(都合により東京の大使館で受け取りたい場合は、事前に伝えておく必要がある。) なお、奨学金受給証明書は発行されたのが8月末だったため間に合わなかったが、無事ビザ申請を完了することができた。
出国年月日	2018年9月4日
経路(往路)	広島空港→台湾桃園国際空港→タンソンニャット国際空港
現地での出迎え	<input checked="" type="checkbox"/> 有 (大学関係者) ・ その他 <input type="checkbox"/> 無



到着後オリエンテーションの実施状況・期間・内容	留学先大学の指導教員や手続き担当の先生にご挨拶した後、通学のためのバスの乗り方、研究室の使い方、学内や寮のコンビニ・食堂の使い方、などを教えてもらった。また、一週間ほどで簡易の学生証および大学ホームページのアカウントを受け取った。
帰国年月日	2018年11月28日
経路（復路）	タンソンニャット国際空港→台湾桃園国際空港→広島空港

3. 留学費用について

支出額	総額	194,000	円
	内訳		
	渡航費（航空券）	0	円（広島大学負担）
	保険料	32000	円
	教科書代（学費）	2000	円
	宿舍費	30000	円
	光熱費	4000	円
	食費	30000	円
	交通費（宿舍ー大学間）	1000	円
	交際費	26000	円
	その他（ビザ・予防接種等費）	60000	円
	（日用品費）	6000	円
	（通信費）	3000	円

4. 授業について

授業の概要について （カリキュラム、プログラム、履修した科目、時間数、履修形態等）	<p>専門である建設材料に関する講義は日本で履修したため、地盤工学系の講義を2つ受講した。Highways on soft groundは、土曜日の6:15から8:45まで開講。スライドを用いた講義で、外部から現場経験のある方を読んで講義して下さる回もあった。毎回課題が出され、次の講義の初めにパワーポイントで解答を発表した。Advanced soil mechanicsは、土曜日の 開講されていたが、受講生が多く英語で開講するのは難しいとのことで、学部生向けで同じ内容のSoil mechanicsを水曜日13:05~17:30に受講した。スライドと板書、問題演習を用いた講義だった。</p> <p>また、履修登録はしていないが、指導教員の講義Corrosion of reinforcement concreteにも参加した。日曜日9:00~11:30開講の講義で、実際にバスで郊外の現場を訪れるフィールドワークも行われた。</p>
単位互換希望の有無	<input checked="" type="checkbox"/> 有 <input type="checkbox"/> 無
授業・勉強についてアドバイス （留学前の履修、留学中、単位取得等）	<p>8月下旬に履修講義を決め、現地の担当の先生が履修手続きをしてくださった。ただし、教員や受講生数によっては英語での開講が難しい講義もあるため、事前の検討をお願いすることをおすすめする。（メールの返信がない先生もいるため、PEACE担当の先生を通して相談するとよい。）同じ内容の学部の講義への出席で代替措置をとってくださったり、英語のスライドを用意して下さったりすると思う。</p>

寮の洗濯事情がよく分かっていなかったため、捨てて帰れるような適当な服（Tシャツとジーンズ）ばかり持参したが、現地ではおしゃれしている人も多く、学内で開催されたワークショップに参加する機会もあったため、少しはきちんとした服装も持参することをおすすめする。ただし、スーツを着用する機会はなかった。

なお、華美な服装をしすぎると、お金を持っていそうに見られてしまうため良くないという考え方もあるため、注意が必要。路上は汚いため、靴やズボン裾は汚れる可能性が高い。

(5) 学内外の施設・設備環境について（インターネット環境含む）

大学は、一限目が6:30頃から始まるようで、夜は9時に門が施錠されるまでに出なければならぬ。

夜は、学内の学習スペースとしては、廊下やエレベーターホールに設けられたスペースや図書館が利用可能。私は研究室に席をいただいていたが、指導教員によっては研究室を持っていない。

学内ではwifiの使用が可能だが、プライベートwifiを使う場合はパスワードが必要。現地学生に相談するとよい。パブリックwifiも存在するが、私はセキュリティ面の知識が薄いため、パブリックの方は使わないようにしていた。学外では、カフェやレストランではたいていの場合wifiが備え付けられている。パスワードは店員に尋ねるとよい。

(6) 現地学生や地域との交流について（どのような、機会・きっかけがありましたか？）

市中心部の人文科学大学で毎週日曜日、日本語を学ぶサークル活動のようなものがあるらしい。現地の研究室の学生に誘ってもらったが、同時帯に開講される講義を受講することにしたため、参加できなかった。

一方、ホーチミン市工科大学には、卒業後に日本で働いて技術を身に付けるべく日本語で学習するコースがあるらしい。私の滞在中は日本人の先生が講義を担当していたため、広島大学の教授からのご紹介でお会いし、日本語クラスの学生たちとも交流する機会を得ることができた。

また、広島大学へ来ていた交換留学生が既にプログラムを終え帰国していたため、この交換留学プログラムを通して友人ができ、さらにその友人と知り合うという形で現地の学生や新卒社会人と交友を深めることができた。

(7) 習慣やマナーの違いによる対人関係等、注意すべきこと

特に気にするべきことはなかったと思うが、例えばバスのような公共交通機関でも、乗務員は日本のように丁寧に接客してくれるわけではない上に英語は話せないため、自分でしっかり周りを見て行動する必要がある。

(8) 日本から持っていくべきもの、持っていくべきでないもの

- ・ 学生証の申請で証明写真が必要となった(19x25mm)が、パスポート用のものしか持っておらず、現地で焼き増ししてもらった(3x4mmのものをハサミで切れば十分)。事前に担当者に確認し持参すると手続きが早い。
- ・ 寮に入居すると部屋の鍵とロッカーの鍵、入居証を保管する必要があるため、何かキーホルダーがあると管理しやすい。
- ・ 寮や大学の周辺でもスマートフォンや財布等のすりか頻発している。小さい肩掛けカバンを身体の前に持ち、財布をばね式のストラップでつないでおくと少し安心できて便利だった。
- ・ また、寮のシャワーが部屋の中にあるが、ビーチサンダルがあると便利。クロックスを持参したが、ビーチサンダルの方が便利だと感じた。(現地でも購入可。) シャンプーやボディソープだけでなく、日焼け止めや虫よけなどもスーパーで売っていたため、3ヶ月分持参する必要はないかもしれない。
- ・ 突然雨に降られることが多いので、折りたたみ傘とカッパを携帯しておくことをお勧めする。

(9) その他生活等に関して参考となる情報・アドバイス

市内の移動にはタクシー配車アプリGrabを使うと、ぼったくりの心配が少なく便利。雨の日の夕方、市中心部から帰宅しようとした際一般のタクシーを拾ったがぼったくられた。やむを得ずタクシーを利用する際は、タクシーの頭に書いてある電話番号が正しいか、発車時にメーターが0になっているかを必ず確認すること。

6. 帰国後の進路について

卒業予定年月	2020年3月	(当初の卒業予定年月)	2020年3月)
卒業が遅れる見込みの場合、その理由	<input type="checkbox"/> 4年次に留学したため <input type="checkbox"/> 単位不足のため <input type="checkbox"/> 新卒で卒業するため <input type="checkbox"/> その他(具体的に)		
現在の状況および今後の予定・進路等	留学先では単位互換可能な講義を履修した。4ターム開始に間に合うよう帰国し、講義を履修中。今タームで単位を取り終える予定。修士論文の研究も再開している。		

就職活動や留学前の単位取得、教育実習等についての工夫	<p>秋季インターンシップには参加できないが、冬季インターンシップの情報を見逃さないよう現地でも情報を確認するようにしていた。帰国後の履修登録期間等についても事前に確認しておいた。</p> <p>また、帰国後スムーズに研究活動を再開できるよう、できる限り計画を進めておいた。</p>
----------------------------	---

7. 留学準備, 留学中に役立った書籍, ウェブサイト等

書籍, サイト名	詳細 (出版社, URL 等)	コメント
はじめてのベトナム語	ナツメ社	<p>ベトナム語はアルファベットベースのため読みやすいが発音が独特なため、注文等も英語ではなかなか伝わらない。CD付きで分かりやすいこの本で少し練習した。</p> <p>また、基本的な文法や単語を少し知っているだけで、現地の学生との集団での会話がより楽しめたり、話のきっかけになったりするためおすすめ。</p>
地球の歩き方 aruco ホーチミン	ダイヤモンド社	<p>コンパクトで持ち運びしやすく、料理、観光、雑貨などカテゴリー別にまとめてあるガイドブック。写真が多く、住所も載っているため、現地の学生が街を案内してくれたりレストランを選んでくれたりする際、このガイドブックを参考にしており、コミュニケーションのツールにもなった。</p>

8. 留学を振り返って

留学を終えての感想：

留学中、ベトナム語ばかりの講義にもう出たくないなと思ったり、毎日英語を使っているうちに外出が面倒臭くなったりすることもありましたが、毎日必ず外に出るという課題を自分に課し、一日一日を大切に過ごしました。そうしていくうちに、ホーチミンでの経験が、日本にいただけでは絶対に手に入らない貴重なものとなりました。

後輩へのメッセージ：

このプログラムは、自分で活動を取捨選択し、滞在期間の過ごし方をアレンジできる形式にもなっていると思います。ゆっくりのんびり毎日を望めばそれも可能かもしれませんが、様々な事にどんどんチャレンジしたり探し出したりする時間にする事でより有意義な時間にする事ができます。海外での滞在に興味がある方にはぜひ、このプログラムに参加してみてください。滞在先での経験を自分で工夫し作り上げていけば、3か月間で視野もかなり広がります。

また、東南アジアというと「発展途上国」というだけで「不便」「不衛生」といったイメージを抱くかもしれませんが、実際にその地域で生活することでその印象が大きく変わりました。この経験は私にとって、かけがえのないものとなりました。この機会を利用してぜひ東南アジアでの生活を経験してみてください。



9. 自由記述 (1200字以上)

ベトナムでの3か月の生活の中で取り組んだことは主に、講義への参加、現地学生の研究活動への参加、そして現地の鉄道拠点駅建設現場でのインターンシップでした。全ての活動を通して、やはり実際に経験し、自分の目で見て考えることはとても大切なことであるということを実感することができました。ベトナムは発展途上国で、まだまだ発展していないことはたくさんありますが、ホーチミン市中心部は想像以上に人であふれ、朝から晩まで商業活動が盛んにおこなわれていました。「発展途上国」という言葉から想像していたものと比べて、街はとても活発に動いていたように思います。ベトナム人の皆さんは、英語をスムーズに話せるわけではない方は多いですが、それでも暖かい方ばかりで、少ししか関わっていないような人でも出会った時には積極的に話しかけてくれます。現場でも大学でも、一生懸命に学びつつも冗談を言うのが好きな人が多く、メリハリをつけて活動するのが上手な人が多いように思います。毎日を笑顔で楽しんでいる皆さんと交流することができ、私は帰国してからも、ベトナムの皆さんのように楽しんで生活することを心掛けています。

私は日本を発つ前に、いくつか自分の中で約束事を決めていました。「毎日必ず外出して人に会うようにすること」と、「何か疑問に思ったり困りごとが生じたりしたとき、躊躇せずに伝えること」です。ベトナムでの生活の中で、研究や講義以外の時間がたくさんあり、もちろんゆっくり過ごすこともできますが、私はできるだけ研究室に顔を出し、一緒にご飯を食べに出たり、カフェに行く機会があればそこでいろんな話をしたりするようにしていました。会話を通して、初めよりも英語をスムーズに使うことができるようになり、私だけでなく現地の学生も、英語を使うことへの躊躇は薄くなっていきました。また、私にとって印象に残っているのが、大学で出会った友人や現場で出会った作業員の皆さんと話した、お互いの将来に関する会話です。日本とベトナムでは考え方も生活背景も異なりますが、みんな同じように人生があり、それぞれにできる範囲で夢を持っているということを改めて認識することができました。また、国籍を超えて交友関係をはぐくみお互いの成功を願うことができ、以前よりも外国の存在が近くなりました。ニュース等で外国の話題を見ても、自分のことのように考える視点を持つようになりました。

このように、3か月という短い期間でしたが、ベトナムでの生活は私の視野を大いに広げてくれました。帰国後は、日本に來ている留学生と以前よりもよい関係を築くように努め、研究生活も以前よりも充実したものになりつつあります。日本および現地で、私の3か月間の経験がより濃いものになるよう、先生や友人など様々な方からご提案やサポートをいただきました。心より感謝いたします。

